

## 富良野看護専門学校「学校の自己点検・自己評価」のまとめ

平成 24 年 3 月 31 日 富良野看護専門学校長 丸 昇

平成 23 年度の本校運営状況について点検・評価し、次のようにまとめたので公表します。なお、詳細については、要請に応じて説明しますので本校事務課に直接ご照会下さい。

( \* 教務課、事務課が独自の方法で実施したため項目・内容の一部に表記の重複がある。 )

- 1 教務（教育指導内容・方法）関係 ~ 主として教育実践内容面の質的な評価  
次の 8 項目についての現状と課題を点検・評価し、その概要を文章表記した。
  - ( 1 ) 教育理念・教育目的 ~ 意義と周知、看護教育観、理念・目的の評価等  
学校要覧、教育計画、学生便覧等において各々一貫した形で示されており、本校の設立の趣旨に整合したものとなっている。理念・目的の評価は特に行われていない。
  - ( 2 ) 教育目標 ~ 理念・目的との一貫性、到達レベルの明確性、実現可能性と評価等  
理念・目的と一貫した学年別目標が示されている。発達段階を踏まえた易 難、低 高等の順序性や表記の一層の改善について評価基準検討委員会で検討している。卒業時到達度目標及び卒後の専門分野認定資格の追跡等は今後検討の必要がある。
  - ( 3 ) 教育課程経営 ~ 教育課程編成、教育内容の考え方、教育計画・研究・評価等  
目標と一貫した教育計画を策定し、教育課程構造図、各分野の考え方及び単位・卒業の認定の基準等が示されている。特に臨地実習の評価について評価基準検討委員会で継続検討している。学内・外指導者による評価過程の体系を検討する必要がある。
  - ( 4 ) 教授・学習・評価 ~ 教育課程との一貫性、看護学内容の妥当性、授業内容・評価等  
教育課程と一貫し、看護学の基本を踏まえた教授・学習計画が立案され、指導内容・方法を工夫した授業展開が実践されている。対象学生の興味・関心、能力・適性に応じた指導の工夫及び指導と評価の一体化については、一層の改善を図る必要がある。
  - ( 5 ) 経営・管理過程 ~ 設置者の方針と組織的な意志決定機能、財政基盤、将来構想等  
設置方針に基く経営、教育効果を考慮した予算が措置されている。職員会議他各種会議の機能及び学校の自己点検・自己評価の効果的実施の改善充実を目指している。
  - ( 6 ) 入学・卒業・進路 ~ 入学者選抜の公平・妥当性、入学希望者開拓、卒業後対策  
定員の確保を基本に、確かな進路意識を持つ質の高い学生の選抜を目指し、特に面接試験の内容・方法等を改善・検討に努めた。推薦及び社会人入学の適切な実施、市内外の中・高校と連携した「出前授業」等を通じた本校 P R の充実を図っている。
  - ( 7 ) 地域社会・国際交流  
看護の日の関係施設訪問、ことぶき大学交流、市行事参加、広報誌「看心ふらの」発行（年 8 回市 H P 掲載）市内中・高校での出前授業及び福祉関係機関主催の講習会講師派遣等の実施で地道な成果を上げている。国際交流の計画は現時点ではない。
  - ( 8 ) 研究・研修

評価基準検討委員会が中心となった実習評価改善の研修、道内外研修会への教員派遣等で一定の成果を上げているが、全教職員への成果の還元体制などに課題がある。

2 事務（学校運営・施設管理）関係 ～ 主として法令・規則との適合性についての点検道看護施設協議会提供の「看護師等養成施設自己点検表」（詳細略）に準拠して7分類132項目について自己点検して適・否を評価し、次のようにその概要をまとめた。

- (1) 学則等の事項 ～ 学則の内容、教育内容の規定、入学金・授業料等
  - ・ 25項目の全部が適（100.0%）であり、学校運営、教育指導の根幹をなす規定については、根拠法令・規則（指導要領）等を遵守したものとなっている。
- (2) 変更申請・届け出・定期報告の事項 ～ 所管機関への諸手続
  - ・ 5項目の全部が適（100.0%）であり、適切に実施されている。
- (3) 教員に関する事項 ～ 専任教員の勤務実態、教員要件の確認
  - ・ 17項目の全部が適（100.0%）であり、指導教員の現状は適切である。臨地実習における「実習指導教員」は、その期間中、有資格者の臨時指導教員を充てている。
- (4) 生徒・学生に関する事項 ～ 定員の確保、入学の選考・資格審査、外国人留学生
  - ・ 該当12項目の全部が適（100.0%）である。設立趣旨を踏まえ、定員の確保を重視している。外国人留学生の入学実績はないが、基本的な対応要件は具備している。
- (5) 教育に関する事項 ～ 授業実施、履修認定・成績評価、合同・合併授業、臨地実習
  - ・ 29項目中28項目が適（96.6%）である。主たる臨地実習施設の看護単位毎の指導者は常時2名体制ではないが、主・副担当で補完しており、その他は適切である。
  - ・ 外部講師による学内授業が多く指導内容・方法の充実が望まれる。臨地実習の評価規（基）準の改善や状況に応じた補充実習・再実習の実施の検討・協議が必要である。
- (6) 施設・設備に関する事項 ～ 施設・設備の管理運営、実習設備、図書、附属施設
  - ・ 該当16項目中全部が適（100.0%）である。開校（創設）19年目となり一部の不具合施設・設備、備品については、市に計画的な予算措置を要望して対応している。
  - ・ 蔵書の補充、開館利用状況を含め、図書室の利活用は堅実に行われている。
- (7) その他の事項 ～ 職員所掌業務・自己点検・評価の規定、諸表簿の整備等
  - ・ 27項目中26項目が適（96.3%）であり、学校の管理運営に関する諸業務規定や法規・法令に則った記録・書類の作成・保管は適切に行われている。H23年度は不明確であった学校の自己点検・自己評価の規定はH24年度中に定める予定である。

### 3 全体の総括

教務（教育指導内容・方法）、事務（学校運営・施設・設備管理）ともに概ね適切であるとの点検・評価結果となっており、特に、法規・法令の遵守に問題は見られない。

両者の点検・評価は、より細かな面や関連する内容においては、なお改善の余地があるものと考えている。H24年度は、より適切な学校の自己点検・自己評価としたい。